

2024 年度 第 2 回 研究例会

実施日：2024 年 11 月 27 日 @社会福祉学部棟 301 講義室

1. 報告者：講師 三品竜浩

報告テーマ：「これまでの実践とこれからの研究 ～主に医療観察法を中心に～」

【報告要旨】

(1) これまでの活動

精神保健福祉領域を中心に、臨床美術、日系外国人のメンタルヘルス・ソーシャルワークのこれまでの経験について説明した。また、前職である法務省社会復帰調整官の実践について紹介し、司法福祉領域における現状について説明した。

触法精神障害者の地域支援は医療観察法をはじめとする関連法律によって実施されているが、地域関係者や一般市民への理解及び受入れについて、まだ多くの抵抗感や障壁が存在する。そのため、家族も含めた社会復帰への支援に加え、一般精神医療福祉への汎化も含めた理論構築や実践方法の開発がさらに求められる。

(2) 今後の研究等

医療観察法の対象者及び家族支援について、特に対象者家族への継続的な支援はほぼ皆無であり、心理的、経済的及び法律的なサポート体制の構築が急務であるため、実態調査を実施する。

また、外国人福祉系労働者の現状や確保への課題等について調査する予定である。

2. 報告者：講師 山本操里

報告テーマ：「これまでの活動とこれからの研究」

【報告要旨】

(1) これまでの活動

宮城県内にてスクールソーシャルワーカー（SSW）として約 15 年活動してきたため、その実践の中で見えてきた実情等について報告した。また、SSW のスーパーバイザーやいじめの第三者調査委員会の委員としての経験を踏まえた SSW の理解促進やいじめの初期対応に関する研修活動の取り組みなどについて報告した。

(2) これからの研究

SSW は、様々な生活環境にある子どもの学びを保障するための福祉の専門家として徐々に社会的認知度も上がってきた。一方で、雇用体制や人材育成、現任 SSW の専門性の向上といった課題は多く、SSW と最も協働機会が多い教育委員会や学校との連携の在り方についても試行錯誤している自治体が未だ多い。今後は、SSW の活動を可視化するなどして実態を明らかにしながら SSW 活用事業における課題等を整理し、課題解決に向けた取り組みの提案などができるような研究に取り組んでいきたいと考えている。